

B—52 長針短針による運針の速度および質の比較研究 (第2報)
—質について—

東京家政大短大 ○本郷 美枝
齋藤 とし

1. 第1報において、長針および短針による運針成績の量、質の一部を比較研究したが、今回は各材質における針目の流れについて種々の測定を試みた結果を報告する。

2. 資料は前回の報告に使用した木綿の薄地、厚地および絹布の3種で、縫い始めより長さ15cm間の表針と裏針の針目の大きさを測定し、さらに、その総計を算出し検討した。

3. 先ず、長針と短針を比較すると、帯芯の1回目は、長針の平均(M) 4.34mm, 標準偏差(SD) 1.24, 短針のM 2.62mm, SD 1.11, 2回目は長針のM 2.78 mm, SD 0.4, 短針のM 2.56mm, SD 1.51となっている。したがって、全般的に長針よりも短針の方が流れは少ない、ただし、2回目の場合には短針の個人差は大きくなっている。また、材質によって比較すると、厚地は長針、短針共に流れ多く、薄地は比較的少なかった。なお、いずれの材質においても、1回目よりは2回目の方が流れはもちろん、個人差も少なくなっていて、基礎技術の必要を感じた。なお、統計的有意差の検定の結果については、当日発表する。